

千葉県稲毛海浜公園自然観察会

木の実や葉っぱで遊ぼう！

浦部 純子（千葉市）

日時：2022年11月26日（土）10:00～12:00 天候：雨

参加者：6名（大人2名、就学前子ども4名）

担当指導員：中田・平田・盛一・浦部、事務局：伊藤

観察会当日は雨が心配の空模様でした。集合時間の1時間前、長傘3本をリュックに挿したおかあさんとふたりの男の子ご家族が気合十分、迫力満点の登場です。もう下の子が手を広げて大きな赤い実を見せてくれます。小さな赤い実がかたまってきた。なんだろう。透明な袋に入れて持たせました。一回りか二回りしたのか、重そうな収穫物を持ち戻ってきました。

受付を始めると雨は降ってきました。そんな中で29名9家族の予定が1家族、その後男の子ともっと小さな女の子を抱っこしたおかあさんも駆けつけてくれました。

2家族で雨の薄暗い照葉樹林の森へ。私が小学生のころには埋め立てが進み、1977年に都市公園として開園してから45年、それが今はりっぱな森です。ちょっと混み過ぎですが。

会の後半の工作用に葉と木の実などの採集をしながら、風邪をひかないように早めに切り上げるつもりでしたが、立ち止まりまた戻ると興味が尽きません。

リースのようなヘクソカズラ、白い星の点々のあるナワシログミ、葉を揉んでみるヤブニッケイ、かわいい花のハマヒサカキ…花や実だけでなく、匂いも嗅いでもらいました。平田さんの「シロダモは葉裏が'白だもーん！'」が印象的でした。葉の裏が白くなかったら、樟脳の香りで葉柄がまっすぐならクスノキ、ニッキの香りで葉柄が曲がっているならヤブニッケイ、これでこの3種は見分けられると知って私がうれしくなりました。

この公園でみられるドングリは4種で、スタジイ・マテバシイ・ウバメガシの実には2年かけて実り、芝生の小川沿いのコナラは1年で実ります。松ぼっくりも2年目の秋にやっと熟します。参加した皆さんには赤ちゃん松ぼっくりをのぞき込んで見てもらいました。クロガネモチの赤い実、ネズミモチの楕円形で黒紫色の実、トベラのはじけた赤いベタベタした実、ツバキの実と種、マサキのはじけたオレンジの実、アキニレの羽のついた小さな種。アオギリの大きな葉と花のように華やかな実のかたまりと船のような1枚の葉についた種が集まりました。

冷たい雨の中から大きな収穫物を抱えて暖かい公園緑地事務所2階へ。ほっと一息です。採集物を机に広げてみれば結構な量でした。室内での作業には盛一さんにも加わっていただきました。皆さんに寄り添ってアドバイスされていました。私も久しぶりにお話ができて楽しくわくわくしました。外でできなかったクイズも良い振り返りになりました。ドングリの芽と根はどこから出るのかな？芽生えの実物を見て、先っぽからだ確認できました。「きのみずかん」作りには、資料として渡した中田さん作「稲毛海浜公園木の実の図鑑」が役に立ちます。葉っぱだけ、花だけ、実だけでは？？？です。お気に入りをひつつき虫（接着剤）で貼り付け、名前シールで仕上げます。皆さん意欲的で「葉っぱのスタンドグラス」にも挑戦しました。そのころには、窓ガラスに飾ったスタンドグラスに日が射していました。

「楽しかった、すごい楽しかった！」に続いて、「おかあさんも！」です。植物の名前を子どもに教えられてよかったとも。参加者にこんなことを言ってもらえたら最高です。子どもを連れて、ことに雨の日の外出は、それは大変です。これからはいろいろな所に探検に行き、私の木、私の場所ができるといいなと思っています。朝方のサネカズラの小さな赤い実は全部剥かれて白い塊になりました。